# 令和４年度　第１回下野市学校適正配置推進協議会　議事要旨

日　　時　　令和４年７月２７日（水）午後２時～午後３時３０分
場　　所　　下野市役所３階　教育委員会室
出席委員　　会　長　　小野瀬　善行　　副会長　　大塩　宗里
　　委　員　　蓬田　みどり　　委　員　　設樂　孝男
　　委　員　　田熊　利光　　委　員　　倉井　充裕
　　委　員　　小林　亜友子　　委　員　　倉井　義郎
　　委　員　　髙山　忠則　　委　員　　石田　陽一
　　委　員　　小谷野　晴夫　　委　員　　宮川　長一
　　委　員　　近藤　善昭
欠 席 者　　１　名
議　　事
（１）前回の検証に関する提言書について
（２）細谷地区及び細谷小学校の現状について
①人口・世帯数の推移
②開発許可申請状況
③細谷小学校における児童数の推移
④小規模特認校制度の取組について
（３）これからの検証スケジュール（案）
（４）その他

【議　事】

（小野瀬会長）　議事（１）前回の検証に関する提言書について、事務局から説明をお願いします。

（事務局）　資料に基づき説明を行う。

（小野瀬会長）　ただいま、事務局より説明がありましたが、委員の皆さまからご質問やご意見がありましたらお願いします。

〔特になし〕

（小野瀬会長）　続いて、議事（２）細谷地区及び細谷小学校の現状について、事務局から説明をお願いします。

（事務局）　①人口・世帯数の推移、②開発許可申請状況、③細谷小学校における児童数の推移の資料に基づき説明を行う。

（蓬田委員）　④小規模特認校制度の取組について、資料に基づき説明を行う。

（小野瀬会長）　ご質問、ご意見はございませんか。

（委員Ａ）　今年から学童保育ができた。一時期あって無くなってしまったが、再開された。細谷小全児童の約半分、２０人が利用している。今まで、小規模特認校利用を検討して、見学にきた保護者がいても、学童保育が無いということで諦めていた。これからは安心して利用できると言えると思う。私の子どもは細谷地区で、当初同じ学区内に同級生はいなかったが、祖父の代から細谷小だったので、細谷小に入れたかった。しかし縁があって学区外から来ていただいて、４人しかいないがとても仲良くしているので、本当にありがたいと思っている。学区外から来ている保護者と話しても、当時は学童保育がなかったので、これで学童保育があればもっといい学校なのにねとずっと言っていたので、学童保育ができてとてもありがたいと思っている。

（小野瀬会長）　前回の検証のとき、学童保育が話題に挙がっていたことを思い出した。設置されたということで、新しい情報をありがとうございます。自治会のほうからいかがでしょうか。

（委員Ｂ）　質問だが、資料を見ると、学区外から利用されている方が増えているようだが、差し支えなければ、どの学区から何人来ているのか教えてほしい。

（蓬田委員）　石橋小学区、古山小学区のお子さんが多いが、今年の１年生だと、南河内小中学校区から１人、国分寺小学校区から２人、石橋小学校区から２人と範囲は広い。そのほかの学年は石橋中学校区から通っているお子さんが多い。

（小野瀬会長）　ほかの委員からいかがでしょうか。

（委員Ｃ）　石橋中に進学する児童が多いとのことだが、すべての人が石橋

中に行くのではなく、例えば、地元というか出身の中学校に行く児童もいるのか。

（蓬田委員）　そうである。

（委員Ｃ）　学童保育が今年から始まったが、小規模特認校利用者はほとんど利用されているのか。

（蓬田委員）　低学年児童はほとんど利用している。高学年になると習い事などのために、保護者が迎えに来ている子が多くなる。

（委員Ｄ）　前回の検証のとき、学童保育のことを覚えているが、先生方の負担という視点から話し合って、よかったという記憶がある。放課後教室のほうもまた別の方法で実施していると書いてあるので、その点に関して、やり方と先生方への負担感はないか教えてほしい。

（蓬田委員）　放課後教室は、木曜日がスポーツ、金曜日が学習を開催しているが、担当者は地域の方であったり、元先生であったりで、私たち教員がそこに携わることはない。管理職や教務が子どもの様子を見に行ったり、ボランティアの先生方と情報を共有したりするために出向くが、担任がそこに行って指導することはない。今はコロナのため、スポーツ教室は行っていないが、金曜日の学習のほうは元校長先生や、長年教育に携わっている先生がよく見てくれている。学校の先生に聞くより垣根が低く、気軽に聞けるようである。保護者から放課後教室をやってほしいと要望が寄せられていて６月から開始したところである。

（小野瀬会長）　職員の働き方改革や、中で取り組まれている状況もよく分かったと思います。

（委員Ｅ）　資料５で、ホームページのアクセスが多いとか小規模特認校の問い合わせの電話が多いということだが、市外の方が多いのか。

（蓬田委員）　市内も市外もある。ホームページを見て栃木県にもこういう学校があるということで、県外からもある。多くは市内である。

（委員Ｅ）　教育委員会に聞くが、もし、市外、県外の方がこの学校の魅力を感じて、子どもたちを通わせたいというときに、子ども一人で引っ越してくるわけにもいかないので、どちらかの親が付いてくるというときに、下野市として受け入れる体制はできているか。

（上野教育総務課長）　教育委員会としてできることはこれから探っていく。条件面、例えば財政の話とか出るかと思うが、そちらについては全庁的に協議をしなければならない。取組の方針としては前向きにしていきたい。

（委員Ｅ）　開発許可申請等もそうだが、特認校になっているということは、調整区域の中の学校ということで、開発行為が難しいというこ

とがあると思う。教育委員会だけでできる話ではないが、全庁を上げて学校を盛り上げるためにこの辺を開発していくとか、いろんなかたちの提案を教育委員会で挙げていくとか、ひとつの方法である。地元の学校の先生も一生懸命やってくれている。それをバックアップできる体制を整えていただければと思う。

（上野教育総務課長）　開発許可申請による緩和、地元に古くからある集落に対する有利な措置を、法律を変えてまで開発したことなので、こういったところは都市計画課と教育委員会とでタイアップをし、細かい要件はあるがお知らせして誘致をしていきたい。

（委員Ｅ）　小規模特認校に魅力があって問い合わせをした県外等の保護者が、安心して細谷小に来てもらう体制というのは、教育委員会だけでは無理なので、全庁を上げて、取り組んでほしい。

（小野瀬会長）　今後はコミュニティスクールの導入も含めて、地域と学校との連携もあり、そういった意味で大きな受け皿がますます重要になるのは間違いないので、Ｅ委員の提案は重要な視点であると思う。少し逸れるが、私はある高校のコミュニティスクールに関わっており、やはり魅力のある高校に進学したいが、下宿とか通学圏の問題をどうするかとか、やはり市のバックアップがないと難しいということで進んでいるところもある。そういったところの情報提供ができればと思っている。

２点ほど確認いたします。資料４のところで、令和３年度と令和４年度を見比べて、令和３年度の３学年の制度利用者が１名であって、それが持ち上がって４学年が２名となっているが、これは転入されてきたということでしょうか。

（蓬田委員）　途中から制度利用で転校してきたお子さんである。

（小野瀬会長）　１年生から利用が多いと思いますが、途中から転入というかたちも重要な数値と思うので確認しました。

もう１点、他の学区から入学してきて、そのまま石橋中に進学するお子さんもいるということですが、そのお子さんたちは、こういう面で活躍できているとか、見るべきところがあるとかそういうのはあるのでしょうか。

（委員Ｆ）　全体の印象として、細谷小の子たちは先生に大事にされて育ってきているんだなという印象がある。部活なんかで声を掛けると、小学校の先生は『頑張れよ』と言ってくれるんですとか、温かさを感じる。そういうのを私は感じる。あと、コミュニケーションが多い学校ではないので、不得意なのかなと思っていたが、そうでもなく、意外と早く慣れるんだなという印象はある。大きな学校でも安心して子どもたちは頑張っているなという印象が

残っている。

（小野瀬会長）　ほかにありませんか。

（委員Ｇ）　前回、当会議に出席したが、文科省の指導で複式学級を無くすということで、文科省の決まりで進めていくような話をされたこともあったので、それでは委員が集まったとしても、必要がないのではないかと。辞退しようかなと思うところがあった。今回、しばらくぶりの会議だが、皆さんの意見を聞いていても、この小規模特認校というのは、残すべきだと。１校ぐらい市内で残してもいいんだと。そのぐらいの思いで市も行政としてもやってもらえないかと思う。複式学級を解消するためには小規模特認校も何も関係ないんだという、文科省の指導要領に基づいてやっているというような話をされたことあるので、それはちょっと考え方が違うのではないかと思ったので、委員として意見も言えないようなので仕方がないかなということで、今、話をした。そして、この会議が終わって３月に答申をするときに、３年間で見直しますという意見が必ずついてくる。そうすると３年後には、もしかすると細谷小学校は廃校になってしまうのではないかと父兄みんなが思うわけである。もちろん３年に１度、見直すのも結構だと思うが、その答申が、３年後にはもしかしたら無くなってしまうかもしれないと捉える人もいるので、その辺は今日の会議でお話聞いた感じではこの制度を残していきたいというような意見が多いと思い、私も心強く感じる。下野市は、国分寺西小学校、吉田西・東小、薬師寺小といろいろな形で、いい方向に向けて行っているが、それはスタートを切っただけで、実際の検証結果はまだ出ていない。是非、小規模特認校制度も、下野市内で１校ぐらい残してほしいと考えている。

（小野瀬会長）　私自身３期目になるが、前提は子どもたちの学習環境を考えていくもので、現場をよく知っている校長先生、先生方の意見、保護者の視点、地域の視点というのを共有する場としたい。引き続き、委員には自由な発言をお願いいたします。

〔発言終わり〕

（小野瀬会長）　引き続き、小規模特認校制度の利用をどのようにしていくのか、価値付けていくのか、発信していくのかということも、我々のひとつの大きな役割と思うので、引き続き細谷小学校の取組、実施については注視しつつ、支援等ができればと思っています。別の会議、小中一貫の会議も携わるようになるので、そういう面でも情報の整理とかができればと思います。

（小野瀬会長）　議事（３）これからの検証スケジュール（案）について、事務局

から説明をお願いします。

〔承諾〕

（小野瀬会長）　議事（４）その他になりますが、委員から何かありますか。

（委員Ｈ）　青少年育成市民会議に携わっているので、その関係から感想を述べる。細谷小学校の音楽祭の取組が、他の学校とは全く違う取組であった。先生方も入って、子どもたちと一緒に舞台に上がっていたというのを目の前で見て、とても感動した。そのような取組からスタートして、現在、細谷小学校の先生が一丸となって、活動しているが、これが如実に効果を表している。確実にこの小規模特認校の特性を生かした学校になっているということは、入学してくる子どもたちである。これは細谷小学校の小規模特認校を目的に入ってきたと思う。児童数を増やす場合の先生方の労力は、もう限界であると思う。今の時代には、ＡＩの時代なので、やはりこれを活用しないといけないのではないかと思う。また、課題として挙げられているが、１つは保護者の送迎について、何か手立てはないか。大きな課題である。もう１つは、「寄り添う」という言葉に誤解が生じやすいことである。一般の人たちにとって、「寄り添う」というと、１から１０まで全部子どもに先生が寄り添うということになるので、そのようなことをやっていたら、子どもにも悪影響が出る。やはり教育という中で、「寄り添う」というのは、意味としては違うのだと、もっと大きな意味を持っているのだということを、保護者に伝える必要があると思う。

この細谷小学校の小規模特認校を是非残していきたい。今の状態だったら残していけると思う。

（小野瀬会長）　学習指導要領も変わり、令和の日本型学校教育ということを国も言い出して、個別最適な学びであるとか、協働な学びであるとか、子どもたちの学びとの在りようということで、クローズアップされている。そのような中で、教師は子どもたちの学びの伴走者であるというような話が出ていた。ただ伴走者は主役ではなく、子どもたちが走らなければ伴走者も走れない。副会長も同様なお話をされていたが。細谷小はもちろん、下野市の子どもたちの学習環境であるとか、そういった適正な規模というものを議題にしてまいりたい。